

茂原市史編さん 事業の活動

(仏像調査その三)

「妙見信仰と」

上総氏、千葉氏

みなさん、妙見さまをご存知ですか？北極星の神格化で、人の運命を掌握する司命神です。中央アジアの遊牧民の信仰が中国で仏教や道教と習合して日本に伝来、奈良時代にはかなり隆盛していました。

市内にもこの妙見信仰を認めることが出来ます。こちらは早野の妙見様と通称される東光寺のお像です。

像高二七・五センチ、木造・彩色・玉眼。長髪の童子形で、



▲妙見菩薩立像
早野 東光寺所蔵

皮鎧を着用。左手には宝珠を、右手には剣を執り、亀と蛇を踏まえています(道教の四神のうち北方神の玄武)。

この姿は古代以来のものでは無く、鎌倉時代に千葉氏が創案したと考えられています。その頃千葉氏は幕府内の紛争



▲妙見菩薩立像蛇と亀
早野 東光寺所蔵

で、一族崩壊の危機を迎えていました。そこで新たな精神的支柱を創って結束を取り戻そうとしたのです。

このタイプの妙見像は下総では各地にあります。上総には少なく、所在する場所は千葉氏ゆかりの土地と考えられます。

茂原はむしろ上総氏の勢力圏でしたが、ご存知のように上総介広常が源頼朝に誅されて以後、上総氏は姻戚関係を結び、千葉氏化して命脈を保ちました。当像は江戸時代に降っての制作ですが、そんな上総氏千葉氏化の名残りと考えられます。

こちらのもう一体は綱島浄法寺に伝来した天部形立像

です。

像高五四・五センチ、榿材の一本造り、素地の像で、面部や腕が失われていますが、平安時代後期に遡る古仏です。

不動明王と一對なので、毘沙門天像だったと思われますが、ある時期に台座が亀(頭部欠失)に改変され、妙見像に擬せられていたことが分かります。

制作された平安時代後期は上総氏全盛の時期で、上総のほぼ全域、下総もかなりの部分を勢力下においていました。

上総氏の所領には毘沙門天像が多く遺存します。浄法寺は鎌倉中期に上総介の名跡を継いだ角田氏と関係の深い寺院と思われ、角田氏も千葉胤政の娘を娶るなど千葉氏化したことが分かっています。



▲天部形立像
綱島 浄法寺所蔵

毘沙門↓妙見への改変がいつ時代かは分かりませんが、ここにも上総氏の変遷を見ることが出来ます。

また、日蓮宗系の寺院にも妙見信仰がありますが、これは中山法華経寺を庇護した九州千葉氏の信仰が展開したもので、江戸時代には飯高や小西など日蓮宗の檀林(学問所)に祀られたことで全国に広まりました。もっとも、その際は軍神ではなく学問神や運命神とされ、剣を下に向ける特徴があります。

茂原市史調査執筆委員

濱名 徳順

問合せ

美術館・郷土資料館

☎(26)2131 FAX(26)2132